

## 港区一般廃棄物処理基本計画(第3次)改定等に係る基礎調査 報告書(概要)

### 1. 基礎調査の概要

#### ①調査目的

令和 8 年度に予定されている「港区一般廃棄物処理基本計画(第3次)」改定のための基礎資料とするために、ごみやりサイクル、プラスチックごみ、食品ロス等に関する意識や行動、排出実態を把握するため、区民・事業者へのアンケート調査及び事業者へのヒアリング調査を行いました。

#### ②調査内容

以下の 3 つの調査を実施しました。

- (1) 区民アンケート調査 (2) 事業者アンケート調査 (3) 事業者ヒアリング調査

#### ③アンケート調査方法

区民アンケートの対象は、区内在住の 18 歳以上の日本人、および外国人に対し、紙の調査票を郵送し、回答は郵送とオンラインで受け付けました。発送数は、日本人 1,800 世帯、外国人 200 世帯とし、住民基本台帳から無作為に抽出しました。

事業者アンケートの対象は、経済センサスの内訳を参照し業種ごとの発送数内訳を決め、区内事業所に対して紙の調査票を郵送し、回答は郵送とオンラインで受け付けました。

#### ④回収率

回収率は下表のとおりです。

##### 【区民アンケート】

	日本人	外国人	計
発送数	1,800 件	200 件	2,000 件
戻り数	21 件	7 件	28 件
有効発送数	1,779 件	193 件	1,972 件
回収数	608 件	8 件	616 件
回収率(%)	34.18%	4.15%	31.23%

##### 【事業者アンケート】

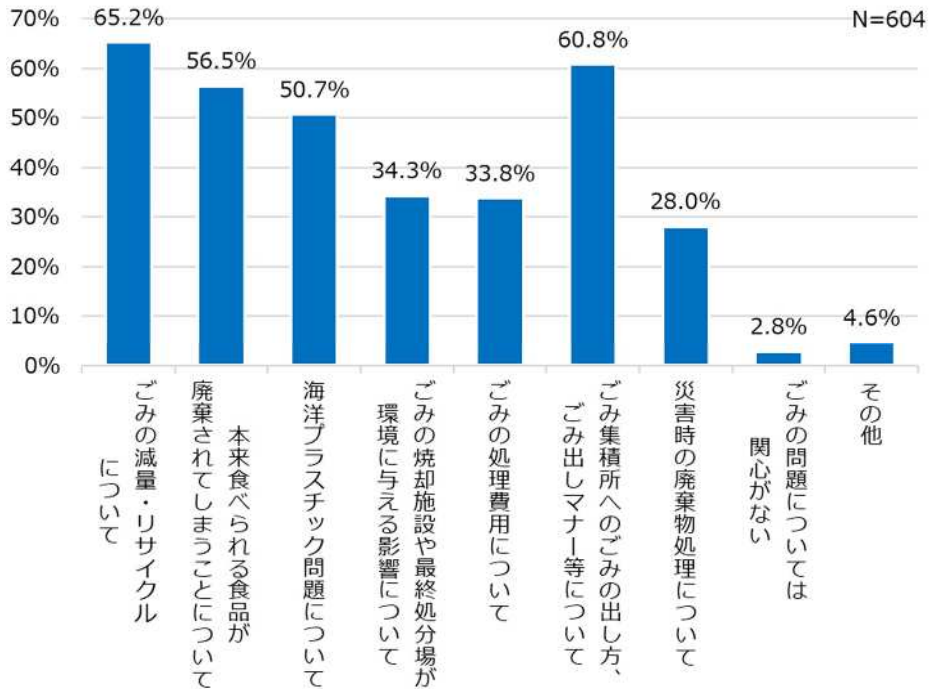
	計
発送数	2,200 件
戻り数	394 件
有効発送数	1,806 件
回収数	440 件
回収率(%)	24.4%

## 2. アンケート調査の結果

### (1) 区民・事業者の関心・取組について

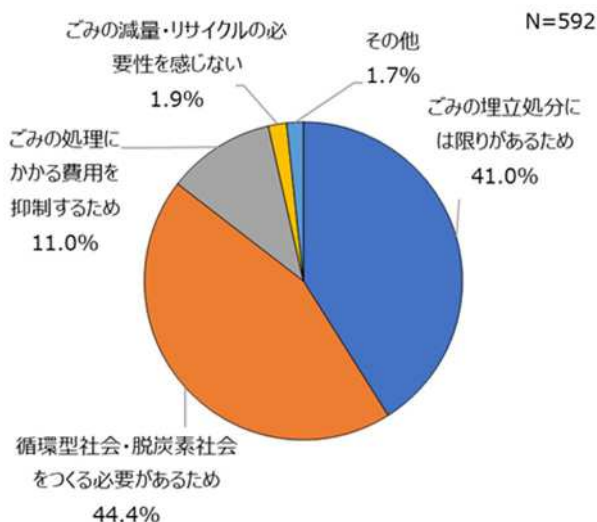
#### ①区民【ごみに関する問題意識や日常の行動について】

「ごみの減量・リサイクルについて」の割合が約 65%と最も高く、次いで「ごみ集積所へのごみの出し方、ごみ出しマナー等について」(約 61%)となりました。なお、「ごみの問題については関心がない」は回答割合が約 3%と低く、区民の多くがごみに関心を持っていると言えます。



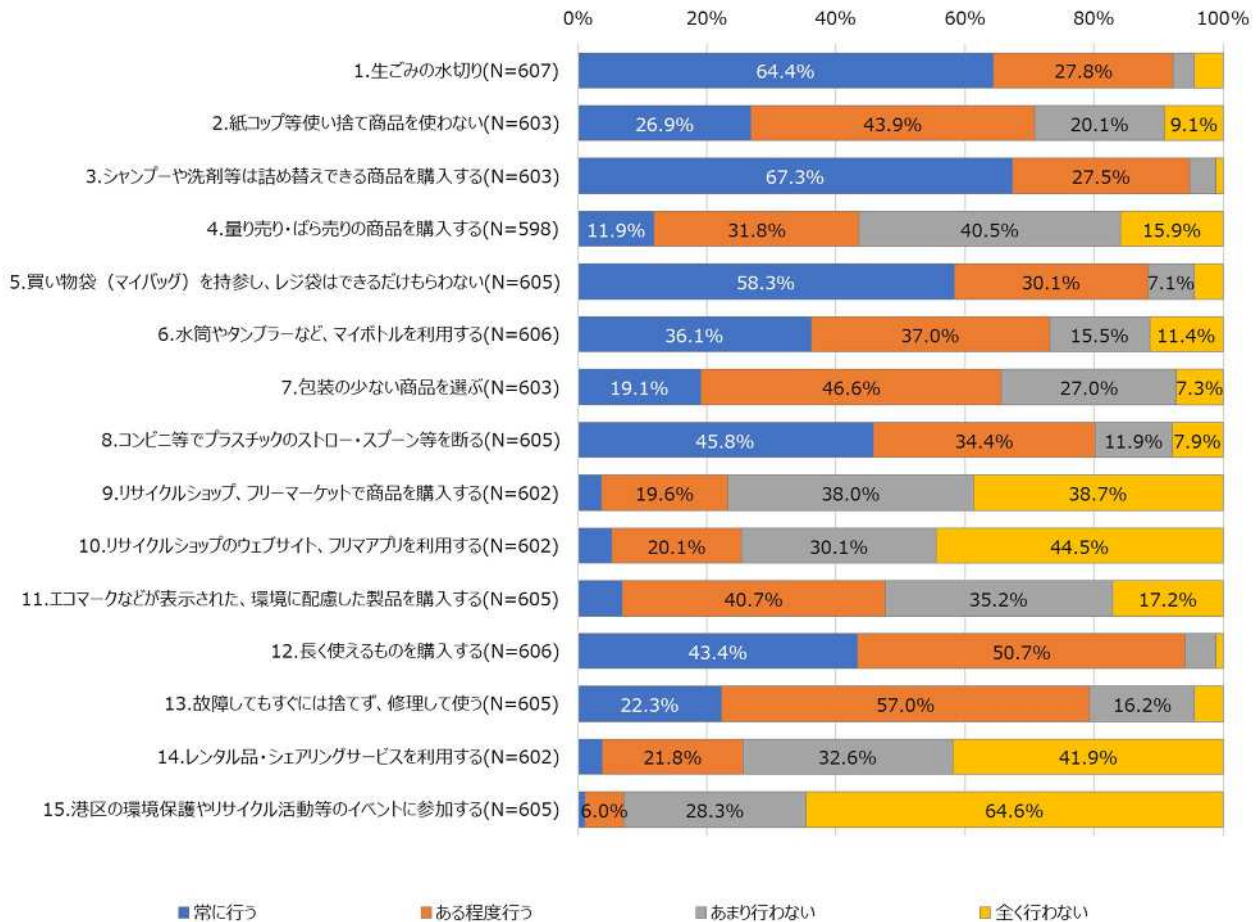
#### ②区民【ごみの減量・リサイクルをしなければならない理由】

「循環型社会・脱炭素社会をつくる必要があるため」の割合が約 44%と最も高く、次いで「ごみの埋立処分には限りがあるため」(約 41%)となりました。



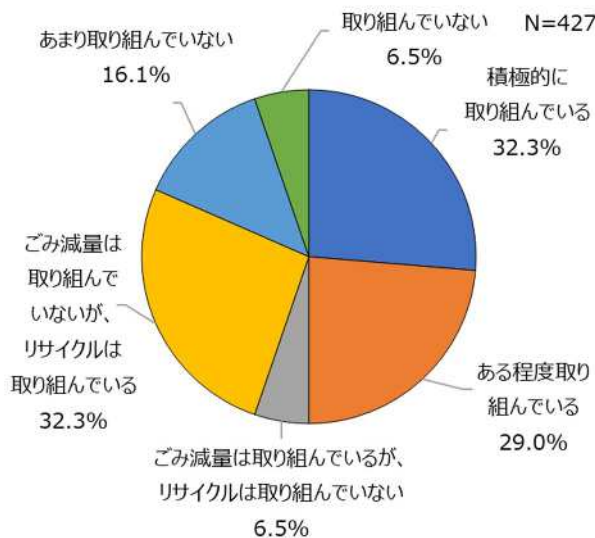
### ③区民【日頃の生活で心がけていること】

「常に行う」の割合が最も高かった取組は「シャンプーや洗剤等は詰め替えできる商品を購入する」(約67%)となり、次いで「生ごみの水切り」(約64%)となりました。一方で「全く行わない」の割合が最も高かった取組は「港区の環境保護やリサイクル活動等のイベントに参加する(約65%)」となりました。



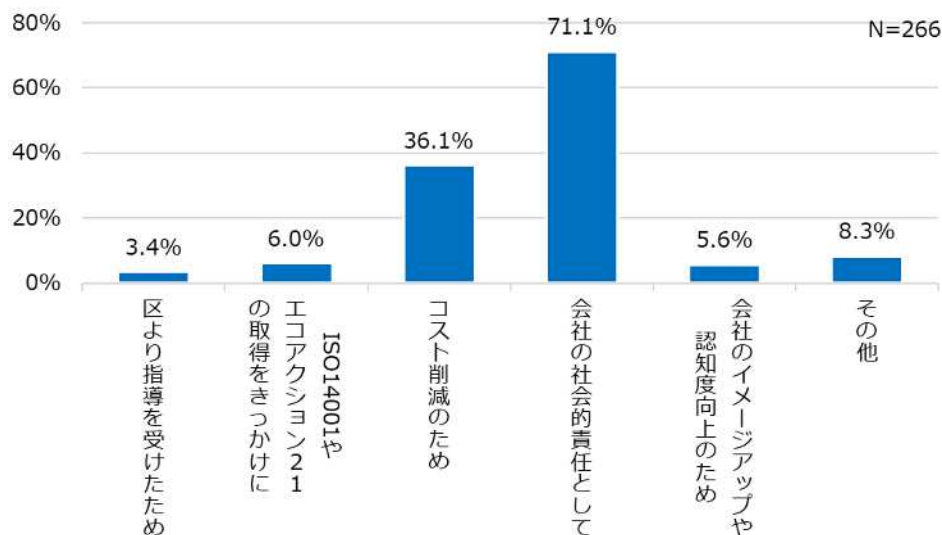
### ④事業者【ア ごみ減量、リサイクルに積極的に取り組んでいると思うか】

「積極的に取り組んでいる」、「ある程度取り組んでいる」の回答が約6割となりました。



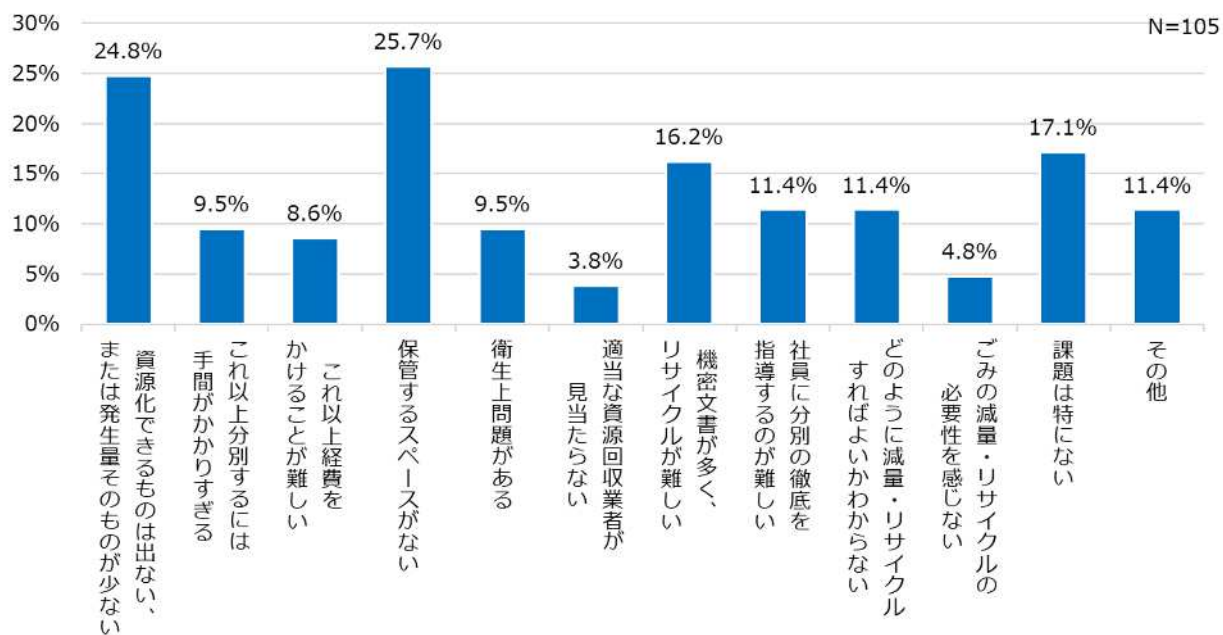
## ⑤事業者【イ 取組のきっかけ】

アで「積極的に取り組んでいる」、「ある程度取り組んでいる」、「ごみの減量は取り組んでいるが、リサイクルは取り組んでいない」、「ごみの減量は取り組んでいないが、リサイクルは取り組んでいる」と回答した事業者について、「会社の社会的責任として」の回答が約71%となりました。



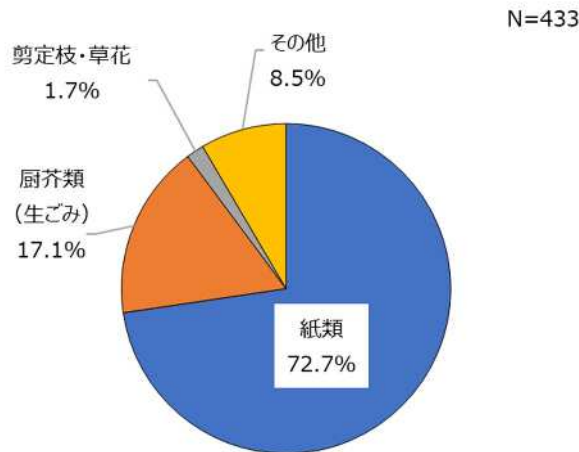
## ⑥事業者【ウ ごみ減量、リサイクルを進める上での課題】

アで「あまり取り組んでいない」、「取り組んでいない」と回答した事業者において、「保管するスペースがない」の回答が約26%、「資源化できるものは出ない、または発生量そのものが少ない」の回答が約25%となりました。



## ⑦事業者【可燃ごみの容積割合】

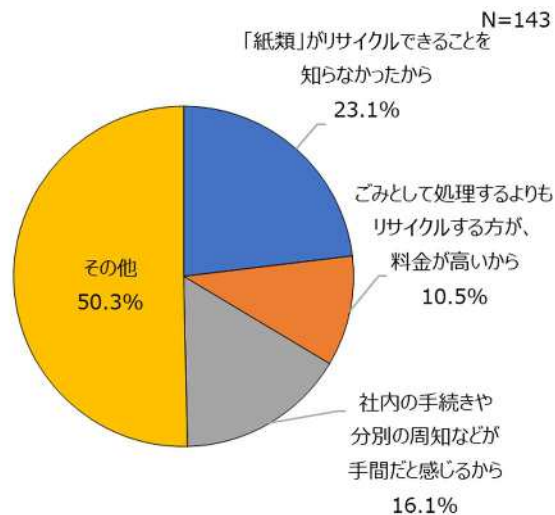
可燃ごみの内訳は「紙類」が約 73%と最も多く、次いで「厨芥類(生ごみ)」が約 17%となりました。



## ⑧事業者【「紙類」をリサイクルしない理由】

「紙類がリサイクルできることを知らなかったから」が多く、約 23%でした。

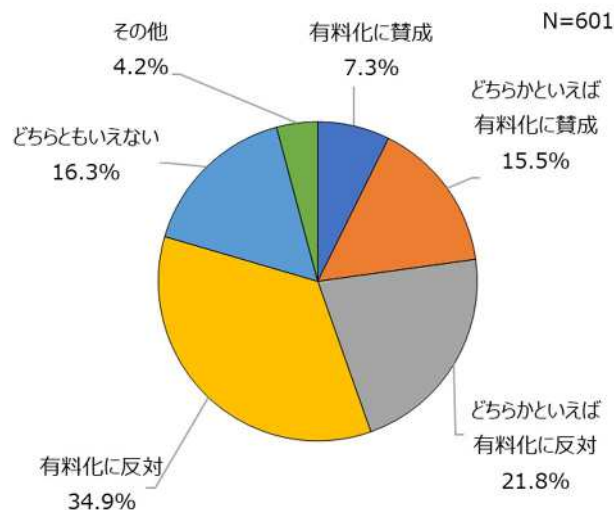
その他は、ほとんど出ない、ビル管理会社へ任せているため不明、シュレッダーで処分している。の回答が多くありました。



## (2) 区民の家庭ごみ有料化に対する意識

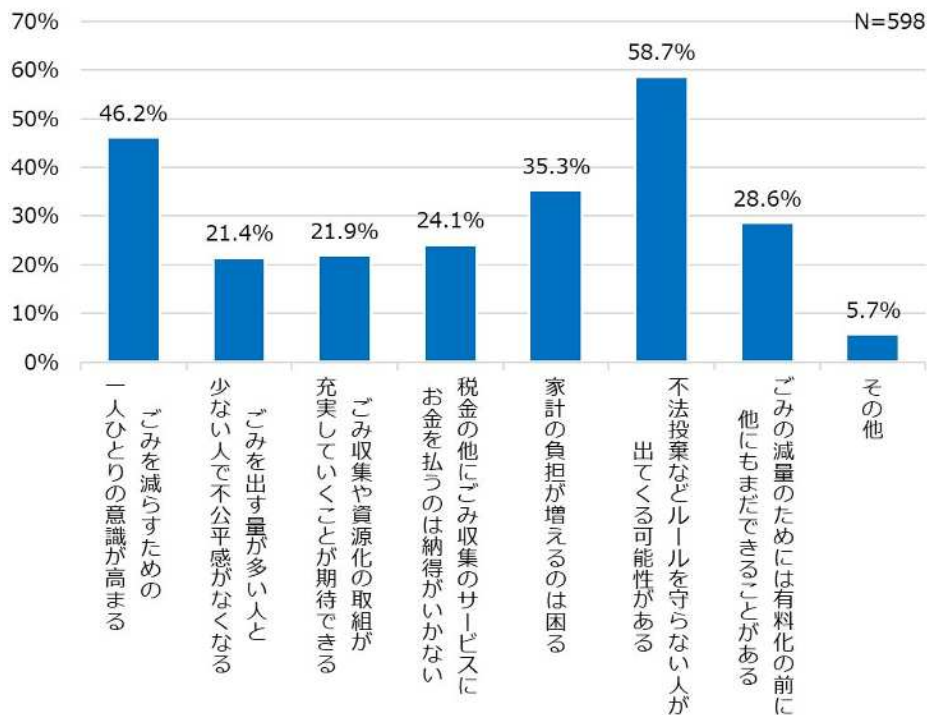
### ①区民【家庭ごみ収集の有料化について】

「有料化に反対」の割合が約 35%と最も高く、次いで「どちらかといえば有料化に反対」(約 22%)となりました。



## ②区民【家庭ごみ収集の有料化の効果や課題についての意見】

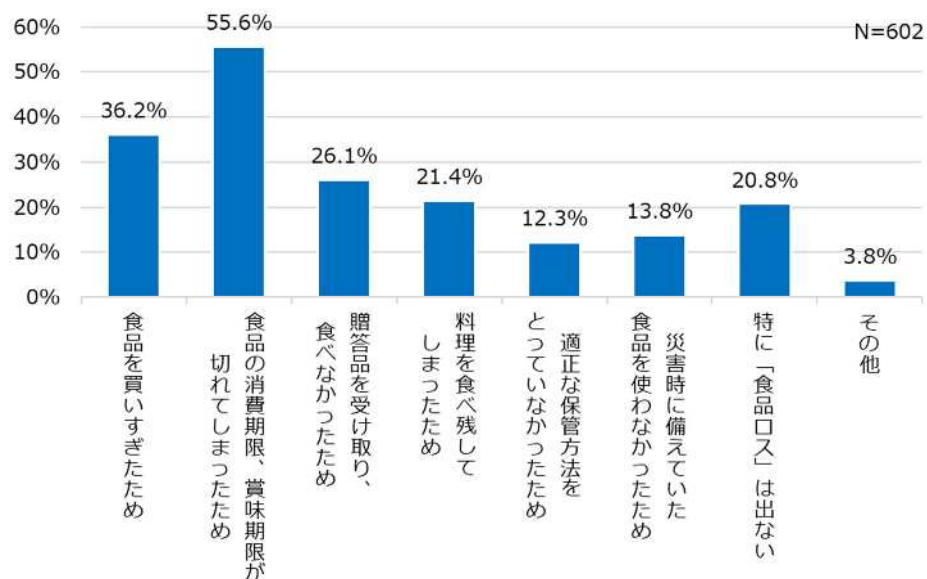
「不法投棄などルールを守らない人が出てくる可能性がある」の割合が約 59%と最も高く、次いで「ごみを減らすための一人ひとりの意識が高まる」(約 46%)となりました。



## (3) 食品ロスについて

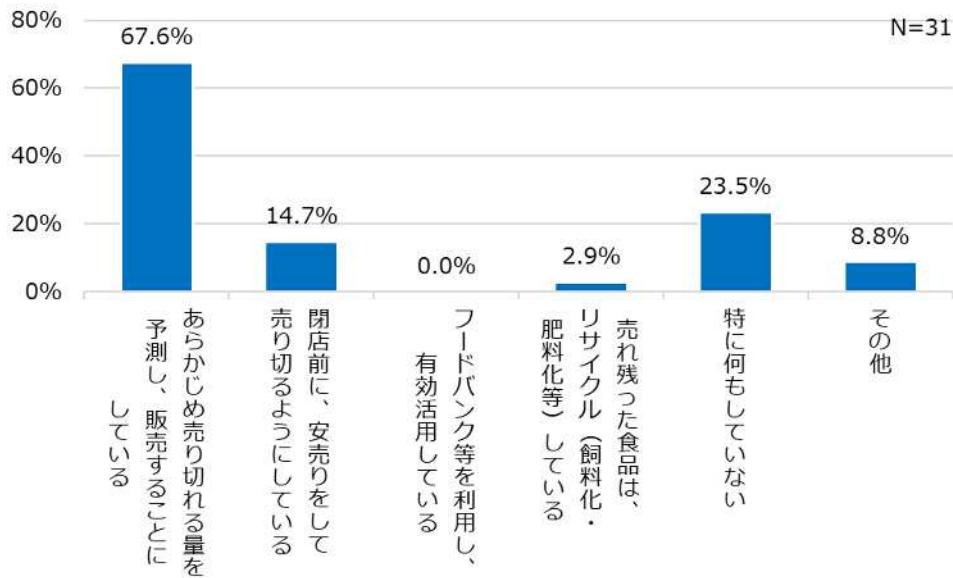
### ①区民【食品ロスが家庭で発生してしまう場合の原因】

「食品の消費期限、賞味期限が切れてしまったため」の割合が約 56%と最も高く、次いで「食品を買いすぎたため」(約 36%)となりました。



## ②事業者 【【食品販売事業者のみ】食品ロスを発生させないための取組】

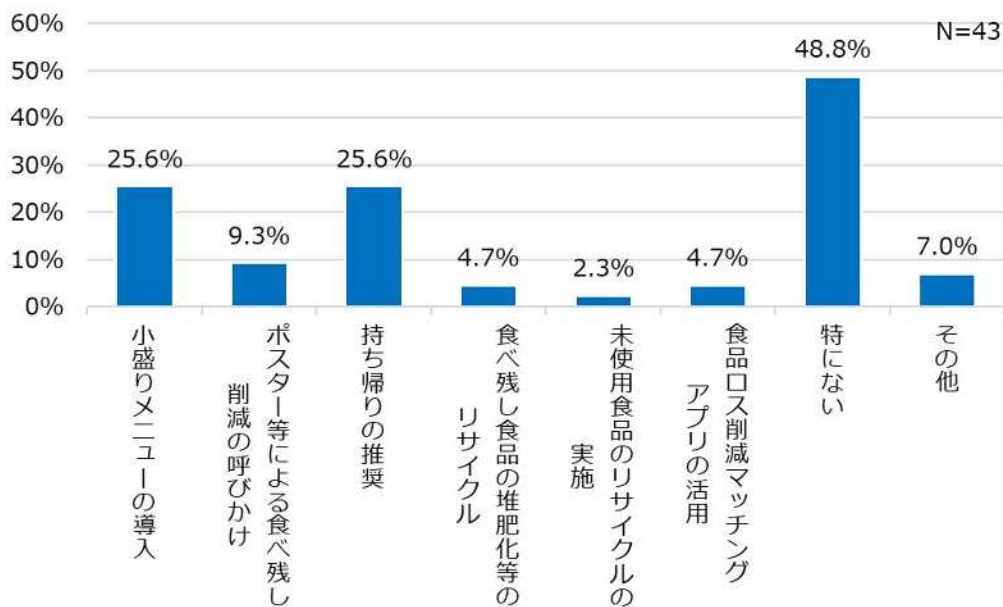
「あらかじめ売り切れる量を予測し、販売することになっている」の回答が約 68%となりました。



## ③事業者 【【飲食店、宿泊施設のみ】食品ロスを発生させないために実施している取組】

「特にない」の回答が約 49%となりました。

「その他」は、「3010運動」、「おまかせメニューの導入」等の回答がありました。



### 3. 事業者ヒアリング

#### ▼調査内容

以下の質問について、事業者を訪問し聞き取り調査を行いました。

- ・事業所の概要
- ・事業活動から出るごみの種類(食品ロス、リサイクルしている紙類、廃プラスチック)
- ・ごみの分別・資源化の状況(食品廃棄物削減対策、プラスチック対策等)
- ・ごみ減量・資源化に向けた課題
- ・区への要望

#### ▼調査対象、および調査結果要旨

調査対象は、排出事業者 6 社、廃棄物処理事業者 2 社の合計 8 社としました。

	事業者概要	調査結果要旨
A 社	宿泊業(ホテル)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開業当初からビュッフェ形式で料理を提供しており、朝食付きの予約者数によって仕込み量を変えている。</li> <li>・毎日、食品ロスの残量を計量しているが発生量は少ない。</li> <li>・廃プラスチックの削減のために、アメニティはリサイクル可能な素材で作られたものを使用している。</li> </ul>
B 社	飲食業(個人経営)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生ごみはほとんど発生しない。食材の芯や皮も活用している。</li> <li>・苦手なものがある人には注文時に言ってもらい提供しないようにしている。食べ残しもほとんど発生しない。</li> </ul>
C 社	小売業(スーパーマーケット管理事業者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サービスで配布しているカトラリーはデザートスプーンを紙製に、他のものは耐久性の面でバイオマスの製品を使用している。</li> <li>・食品廃棄物は以前が飼料化・肥料化が多かったが、使用先が少なく、納品しても処分されている。現在はメタン、バイオガス化が 7 割程度。</li> </ul>
D 社	小売業(食品)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間 250 種類の商品を製造しているが、和菓子は製造工程で食品ロスはほとんどない。</li> <li>・レジ袋はバイオマスマークの付いているものを使用。</li> </ul>
E 社	コンビニエンスストア	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロス削減を目指すツールとして消費期限が近い値引き商品に貼るシールを作成。2025 年 4 月以降全国展開している。昨年、全国の 9 割の店舗で実施し、前年から食品ロスは削減された。</li> </ul>
F 社	オフィスビル管理事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃棄物の分別ルールを各テナントに配布する等の周知を行っている。</li> <li>・ビルごとのリサイクル率を把握し、各テナントが独自に処理委託している廃棄物については、毎年ヒアリングを実施</li> </ul>
G 社	リサイクル事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シュレッダーごみは資源として受け入れている。</li> <li>・汚れのひどい古紙、大量の紙コップはリサイクルに向かないので、受け入れない場合もある。分別については契約時に周知している。</li> </ul>
H 社	一般廃棄物処理許可事業者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シュレッダーは普通に製紙原料として取引されているものなので業界として認識を変えていきたい。</li> <li>・エコロジー活動の一環として、古紙回収やスーパーの回収ボックス等から集めた牛乳パックを原料にして製造されたティッシュペーパー等を区内公立の小・中学校、幼稚園へ無料配布している</li> </ul>